

令和6年度の学校評価(重点目標)

本年度の 重点目標	<p>ア 感染症対策、食育、医療的ケア、防災防犯等、健康と安全に配慮した学校づくりを進める。</p> <p>イ 自立と社会参加に向けて、一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援を追求する。</p> <p>ウ 主体的、継続的に研修に取り組み、専門性の向上と授業改善を図る。</p> <p>エ 地域の教育資源や外部の専門家と連携し、社会に開かれた教育課程をP D C Aサイクルで実施する。</p> <p>オ 全教職員の創意と工夫で多忙化を改善し、教育活動の充実を図る。</p>		
項目 (担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
小学部	<p>学びの楽しさを通して、興味・関心や人との関わりを広げ、主体的、自立的な生活に必要な力を育む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童一人一人の教育的ニーズを把握し、目指す姿を保護者と共通理解した上で、支援・指導を行う。 ・児童が楽しみながら主体的に取り組みえるよう教材・教具や支援方法を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の意欲を大切にし、深い学びにつながるよう保護者と連携した支援体制を構築する。 ・学校の安全や教室環境を定期的に見直し、緊急時に速やかに協力して医療や家庭につなぐ。 ・I C T機器や地域の教育資源、共有できる教材・教具などを活用して教育活動の充実と業務の効率化を図る。
中学部	<p>生活に結びつく学力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・授業改善のアプローチを教師間で共有し、生徒の「わかる」「できた」「もっと知りたい」につなげていけるように授業実践に努める。 ・学習意欲を喚起する個々への支援方法、授業の進め方、環境づくりなどを考えることで、よりよい授業実践に努める。 ・教職員間で連携をとり、「主体的・対話的」で深い学びの実現に向け授業実践に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年会や教科会だけではなく、O J Tを活用し、それぞれの教職員が持っている情報や実践例を情報共有し、生徒情報の共有や教職員のスキルアップに努める。 ・生徒の自発的な活動を促すために、生徒の興味や関心などを考慮した授業展開を目指す。 ・各授業において、目標、評価を明確に示し、生徒にとって分かりやすい授業実践を行う。 ・教職員間だけでなく、生徒同士、教職員と生徒間のつながりを大切にしたい取組をする。
高等部	<p>卒業後の自立と社会参加を目指した授業実践に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のよさや可能性を引き出し、できることを増やす授業実践に取り組む。 ・生徒個々の教育的ニーズや支援方法を教職員間で共有し、指導に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・I C Tの活用をはじめとしてさまざまな手立てを工夫して自発的な活動を引き出す学習活動に取り組む。 ・生徒個々の教育的ニーズや支援方法を踏まえて指導の目標や評価を行う。 ・進路に関する情報や生徒の状況を教師、保護者、関係機関で共有するとともに地域の資源を生かした進路指導に取り組む。
訪問教育	<p>人や物と関わる力を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が心身ともに安定して授業に臨めるようにする。 ・一人一人の興味・関心、生活年齢や発達段階に応じ、充実した授業ができるようにする。 ・学校行事への参加、友達と関わりあう授業、訪問教育交流会など、個に応じた形での学習活動を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担当者会を活用し、児童生徒の情報交換を密に行い、実態把握に努め、適切な目標、課題設定を考えていく。 ・授業前後の時間や懇談を活用し、保護者や病院、施設関係者と懇談を行い、連携を図る。 ・教職員間の情報共有を行い、授業の参観、分析ができる機会を設ける。
総務	<p>学校の教育活動を作品発表などを通じて地域に発信しつつ、係の多忙化の改善を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・参加する作品展を精選する。 ・出品を搬入しやすい平面作品や優秀作品に絞る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の教職員に負担が集中しないように、誰でも担当可能な方法にする。 ・児童生徒が達成感や自己肯定感を感じられるよう、作品展示の場をしっかりと確保する。
教務	<p>学習指導要領を踏まえた指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画がP D C Aサイクルで実践し、検証、改善をする。 ・新学習指導要領を踏まえて学習活動及び評価の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画の新書式を実践し、教科会や領域会で改善点などを検討できるように立案する。挙がった意見を集約し、よりよい書式に変更する。 ・年間指導計画と個別の指導計画の関連性を明確にし、3観点での評価について教職員に周知していく。
生活指導	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の心の健康状態を把握する。 ・防災対策を強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心の健康についてのアンケートを実施する。 ・防災への備え、訓練内容、防災組織の動きを見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートを実施し、特別な対応が必要な児童生徒がいる場合は、関係教職員と話し合い、対応していく。 ・S C及びS S Wについての情報を教職員と共有する。 ・専門家に防災について相談をする。児童生徒及び教職員に対して防災についての情報を周知する。

研 修	教職員が、研究や研修に取り組みやすい環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究のグループ進め方などに幅を持たせ、教職員が主体的かつ効率的に研究に取り組めるようにする。 ・研修案内などを見やすく掲示するとともに、手引などのデータを校内ネットワークに保存し、閲覧しやすくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の計画、中間報告、研究のまとめなどの情報を教職員間で共有し、情報交換に役立てられるようにする。 ・グループウェアを使い、保管・掲示場所を周知する。
保健体育	児童生徒が給食を楽しみ、安全に食べることのできる環境を整える。	<ul style="list-style-type: none"> ・摂食コーディネーターによる巡回での支援やコーディネーター会での食形態の検討など児童生徒が安全に食事を楽しむことのできる環境を整える。 ・給食週間などの行事を通して食育の充実を図る。 ・感染対策について検討し、周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回指導だけでなく、過去の研修内容や書籍の紹介など教職員が摂食に対する知識を得やすい環境を整える。 ・関係分掌や機関と連携し、児童生徒が食事に対する意欲を高めることができるようにする。 ・日々の支援指導で児童生徒が感染症に対する知識や対策を習慣化できるようにする。
進路指導	進路選択や卒業後の生活に役立つ情報を児童生徒や保護者、教職員等と広く共有する。	<ul style="list-style-type: none"> ・外部の講師を招き、障害者を取り巻く社会情勢や進路選択に役立つ情報を提供する。 ・近隣の事業所や関係機関との連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者、教職員等のニーズや関心を把握し、それに合わせた情報を提供する。 ・校内の研修を充実させ、学校全体でキャリア教育を推進していく。 ・卒業後の生徒が進路先へ円滑に移行できるように、関係機関と協力しながら支援する。
図 書 視 聴 覚	図書へアクセスしやすい環境づくりを目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・本棚の空間に余裕をもった配架を行い、本を探しやすく、取りやすくする。 ・本の更新や修繕を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図書利用調査に基づき、本棚やレイアウトの改善を図る。 ・移動図書館や図書の回収サービスを行い、蔵書の回転率を上げる。 ・蔵書を更新し、図書館をリフレッシュすることで、児童生徒が主体的に読書活動や探求的な学習に参加できるようにする。
情報教育	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が新しい情報機器とシステムを理解し、一人で操作できるようにする。 ・情報機器を使った授業を円滑に行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい情報機器とシステムを学校の教職員が操作しやすいようにマニュアル化する。 ・校務支援システムや研修等を利用し、校内の教職員に使用方法を分かりやすく周知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰もが操作できるように一番簡単な方法で周知する。 ・いつでも目に触れられるところに資料を配置し、教職員に細かく周知する。
自立活動	一人一人の教育的ニーズに応じた支援や自立活動の指導ができるよう、情報の共有に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する分掌と連携を取りながら、児童生徒、教職員が相談、利用しやすい環境を整える。 ・校内研修や外部専門家活用事業を活用した相談活動を行い、広く校内に伝達する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器、コミュニケーション機器、自立活動器具など、多くの人が有効に使える環境づくりを進める。 ・外部講師や校内の人材を活用した研修や相談活動の充実を図り、教職員の専門性を高められるようにする。 ・相談内容を簡潔にまとめて伝達し、教職員で情報を共有する。
教育支援	地域の学校や校内への支援を継続的に行い、教育支援機能の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談や支援・指導検討会では十分な情報提供と丁寧な相談活動を実施する。本校の研修会の内容を充実させる。 ・校外に、支援具や支援方法等を紹介する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談や研修会を通して、継続して支援していく方向があることを伝えていく。具体的な支援方法の他、支援の在り方についても伝えていく。 ・支援具の紹介では、具体的な利用例を示すなど、利用を促す紹介を心がける。
学校関係者評価を実施する主な評価項目について		<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の健康管理や感染症対策を優先に、安心安全な教育環境を整える。 ・児童生徒が主体的に学ぶことを前提とし、学習環境を整える。 ・教職員が研鑽を積むことができるような環境を整える。 ・積極的な校外学習計画や外部専門家の助言を得る機会など、社会とつながる環境を整える。 ・引き続き業務の精選を検討するとともに、教職員の工夫と協力で業務負担を改善していく。 	